

戸次本町にぎわい創出 ワークショップニュース

第1号

発行：令和3年4月
大分市まちなみ整備課
市街地整備担当班
TEL (097) 537-5637

- ～プログラム～
- 1.開会
 - 2.ワークショップの目的等説明
 - 3.ボランティアガイド杏の会による戸次本町としての在町*の歴史について説明
 - 4.戸次本町のまち歩き
 - 5.閉会
- ※在町：江戸時代に城下町以外で商業活動を特別に許された村
- 開催日時：令和3年4月25日(日) (10時～11時30分)
会場：戸次本町 帆足本家酒造蔵
参加者：30名

戸次本町のにぎわい創出に向けて、戸次地区の魅力や将来像を考える「戸次本町にぎわい創出 ワークショップ」を、4月25日(日)に戸次本町 帆足本家酒造蔵で開催しました。

第1回は、『まちの「今」を知ろう』と題し、「まち歩き」をボランティアガイドの「杏の会」のみなさまから、戸次本町の歴史や文化について説明を受けながら行いました。まち歩きでは、戸次本町エリアの、まちの問題点や課題、魅力等を参加者に思い描いてもらい「まち歩きマップ」に記入していききました。

第2回は、5月15日(土)大南市民センター(大南支所)で『まちの「これから」を考える』と題し、グループ討論を行う予定としておりましたが、**新型コロナウイルスの感染状況を鑑み延期します。次回開催が決定しましたら別途ご案内させていただきます。**

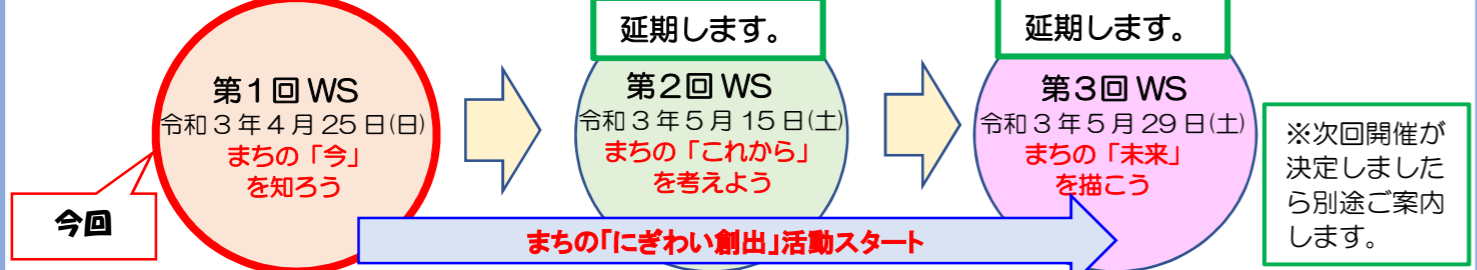
「戸次本町にぎわい創出ワークショップ」に取り組む背景について

戸次本町地区は、江戸時代末期から戦前にかけて建築された建造物が現存しており、その歴史的まちなみの景観形成を図るため、これまでに住宅等の建築物や外構、生垣等の修景整備に取り組んできました。

また、にぎわい創出に向け地元の方々によるイベントの開催やボランティアガイドなど様々な取り組みを行ってきました。

今後は、地域の特色を活かした取り組みや魅力を情報発信することにより、新たな「**戸次本町のにぎわい創出**」ができると考えています。

「**戸次本町のにぎわい創出**」に向け、「**歴史的なまちなみの利活用**」、「**新たな魅力の創出・発信**」、「**まちづくり担い手の育成**」といった視点から自由に意見を出し合い、住民参加型のまちづくりを展開していくためワークショップを行います。



「まち歩き」風景



「戸次本町の在町について」

戸次本町杏の会 会長
金子 多美子

戸次本町は、古代より日向街道筋にあたり、大野川流域という水陸交通の要衝として重視され、地区固有の伝統的な文化が今も息づいています。

江戸時代に入って商売を許可された在町として商家が軒をつらね、この町筋600メートルに85軒の店が長屋式にぎっしりと並び、まるでデパートを横に並べたように、日用雑貨、冠婚葬祭、何でも揃い、遠方からは熊本、宮崎、長崎と周辺の人が集まり、人、物、文化、情報が跳び交い、活気のある賑やかな在町でした。

それは2つの特長があり、その1つは、帆足家があります。

大友の家臣であった帆足が、1586年、大野川合戦で家を焼かれ、玖珠から戸次村市に移住しました。1601年に臼杵稲葉藩の庄屋(434石)となり、1775年、7代・統栄の代で酒造を始めました。8代、9代と分家、別宅、隠宅と巾を広げ、酒造で財をなし、豪商の貫禄を発揮し、また、京や江戸に度々出掛け、文化人と交流をもち、田能村竹田、広瀬淡窓、頼山陽等々、そして蔵を改造し文化サロンをつくり文人墨客の出入りが多く、なまこ壁の在町は賑やいでいきました。また、酒造蔵も建て増しをくり返し1426平方メートルの敷地になりました。

昭和47年まで、酒造りは続き約200年です。

平成7年、14代・帆足市太が酒造蔵を大分市に寄贈し、平成11年に大分市有形文化財に登録(大分市で最初)され、平成12年から3年かけて改修され、江戸末期から明治の姿を復元し、平成15年に祝賀会が行われました。

もう1つは、明治4年に生野春平(村長)が蚕飼いを奨励し、戸次の6割の人が蚕飼いを始めました。蚕はデリケートな虫なので目を離せません。季節労働者がたくさん必要で、家で面倒を見ながら賑やかな蚕飼いです。

蚕は4週間桑の葉を食べ続けるので、寝ずの管理で温度調整、桑の葉の世話で神経をすりへらし、よいマユ作りの競争です。

マユの出来によって、値段が違いますので真剣です。出稼ぎの人達は、集会所で金に替え、家族にお土産を買って帰る。1年間に「春蚕」「初秋蚕」「晩秋蚕」と3回のボーナス、在町も大売出しの旗を立てて、この時とばかり住民も買出しにと、人人で横歩きしないと通れないうれしい悲鳴です。

養蚕は極めて重要な産業で、その生産高は九州一となり、日本はもちろん外国アメリカ等にも輸出するほどでした。

昭和に入り、1933年(昭和8年)養蚕組合連合会によって蚕霊塔が建てられ、その時の大分県知事・田口易之の直筆で記念碑が書かれています。また、竣工の祝賀行事を全町あげて催され、「オカイコさん、オカイコさん」と呼ばれ、大いに盛り上がりました。

蚕霊塔は、現在は戸次中学校の校庭にあり、中学校の校章には桑の葉が用いられています。

明治33年に大分銀行の前身となる国立二十三銀行の出張所が戸次本町に建てられました。

時代の波といいましょうか、在町の商人達の間で大衆劇場『^{じゅうらくかん}聚楽観』が建てられ、商人の唯一の娯楽場で、夕方には笛、太鼓で客を呼び寄せ、歌舞伎の市川猿之助や俳優さん達も公演に来たそうです。

熊本の八千代座に似せて造られた木造2階の廻り舞台で、400人集容でき、下足番があり、田舎にはめずらしい劇場だったらしいのですが、それも維持が出来なくなり昭和30年になりました。

戦後色が濃く、軍の司令で桑畑に飛行場をつくり鹿屋に4、5機飛んだが終戦となり、おかげさまで戸次本町は爆撃に合わず、江戸末期の建造物はそのまま残されました。

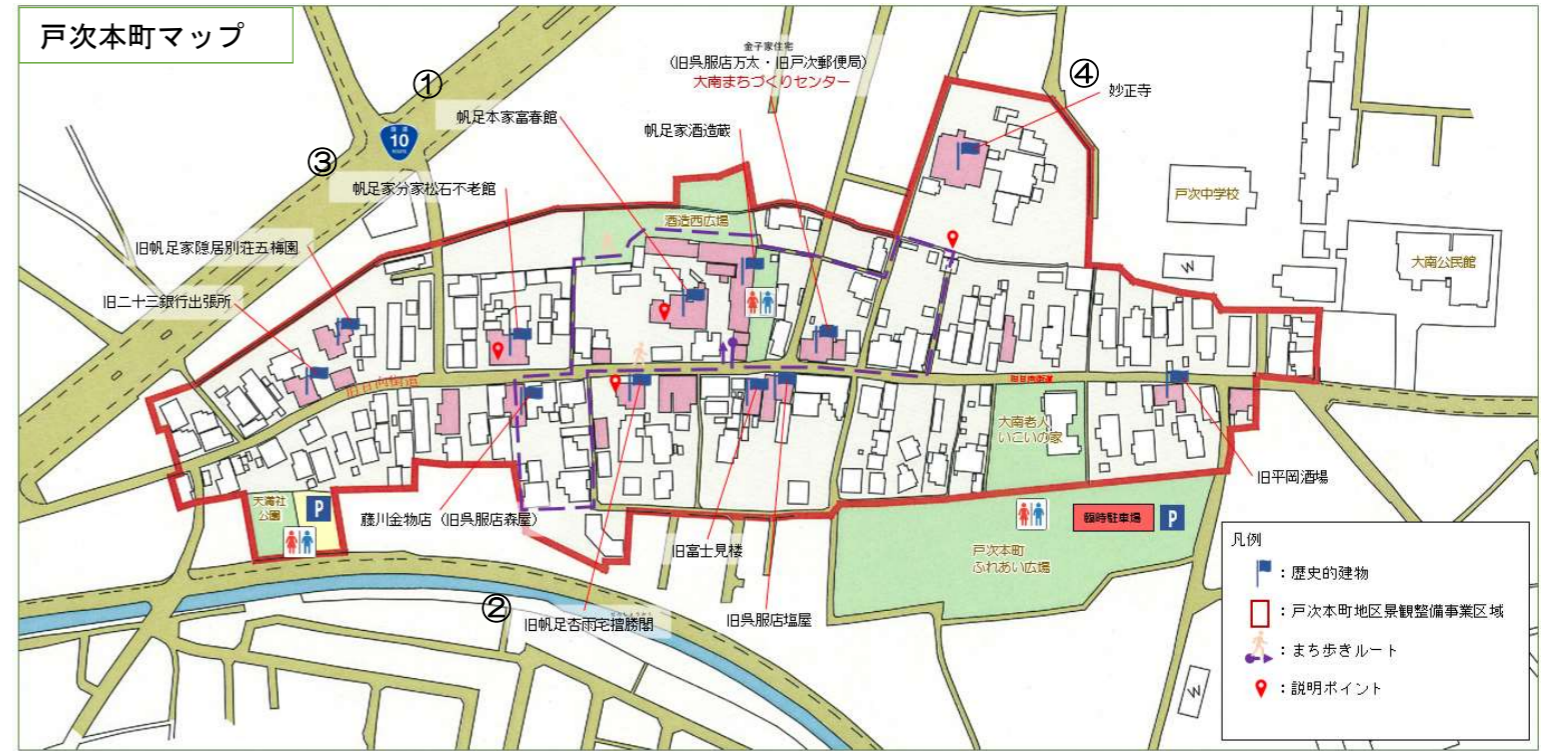
昭和38年に大分市に合併され、戸次本町と改名しました。昭和41年国道10号がひかれ、大分市に行くには便利がよくなりましたが、戸次は通過点となり、お店もだんだんと閉店し、さびしい在町となりました。

平成に入り、当時の大分市長が、価値のある酒造蔵を残そうとお金を出して頂き、修景を修復し、現在の姿を保ち、次世代に橋渡しができることになりました

戸次は毎年の洪水で、大変な苦勞であったでしょう。自然と戦い、自然をうまく利用する。豊かな誇れる在町・戸次本町ありがとう。

苦難を逆手にとって、文化や技術を積極的に受け入れた先人の方々の智恵と努力に感謝します。

第1回戸次本町にぎわい創出ワークショップにて
(原文のまま)



●ガイドポイント

①帆足本家富春館



慶応元年(1865年)に「富春館」を建設。「富春館」とは、屋号で、「富春」という帆足本家の銘酒の名をとり頼山陽が命名した。

③松石不老館



明治三十九年(1906年)改築。平成十七年(2005年)、国の登録有形文化財指定の伝統的木造技術による商家造りの明治期近代和風建築。帆足杏雨命名。

②擅勝閣



旧帆足杏雨宅。安政三年(1856年)築。

④妙正寺



文化11年(1814年)本堂再建。寛政9年(1797年)山門建設。旧臼杵藩の名工高橋団内作。